

登録コード:MH413200 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	身体障害作業治療学Ⅰ【20M以降】 Occupational Therapy for physical dysfunction: Part 1		
担当教員	上村 智子		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学専攻/2年 後期 金曜・1時限		
単位数、講義室	1単位	保健学科診断訓練実習室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。	⇔	生体力学的アプローチと運動コントロールアプローチについて理解できる
	MH25カリ・保健・作業、MH23カリ・保健・作業		
	≪基礎的・専門的な知識と技能≫保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。 ≪科学的探求力≫変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	作業療法士に必要な生体力学、運動コントロールに関する専門的知識を修得し、対象者の状態に応じた作業療法評価・治療において活用できる 作業療法士としての視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に対応していく探求心と対象者の課題に応じた安全な生体力学的アプローチ・運動コントロールアプローチの実践に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	本授業では、身体に障害のある人の作業療法を計画して、実施するための基礎的知識と技術について理解を深めます。具体的には、生体力学的アプローチと運動コントロールアプローチを取り上げて、治療原理と基礎的治療手技を学習します。 本授業は、1年次に学んだ「中枢神経解剖学」「運動学」と、2年前期に学んだ「身体障害評価学実習」「内科学」「整形外科学」と、2年後期に学ぶ「臨床神経学」を前提に学ぶことになります。そして、3年次に学ぶ身体障害領域の作業療法、ならびに4年次の臨床実習における重要な基礎知識となります。 本授業は、担当教員の医療機関における作業療法士としての実務経験を活かして講義を行います。本授業は男女共同参画に関する内容を含んでいます。		
授業計画	第1回(10月2日) 身体機能作業療法学の基礎 第2回(10月9日) 対象者とセラピストのためのボディメカニクス、運動制御理論と運動学習 第3回(10月16日) 関節可動域の維持・拡大 第4回(10月23日) 筋力と筋持久力の維持・増強 第5回(10月30日) 協調運動障害とその治療 第6回(11月6日) 生体力学的アプローチまとめ 第7回(11月20日) 運動コントロール向上の原理、中間試験 第8回(11月27日) 脳卒中の運動学習アプローチ(概論)、ノートの点検 第9回(12月4日) // (バランス) 第10回(12月11日) // (起立動作と着座動作) 第11回(12月18日) // (歩行) 第12回(12月25日) // (リーチングと手の操作) 第13回(1月8日) 脳卒中の運動学習プログラムまとめ 第14回(1月15日) 生体力学的アプローチの作業への応用(レポート発表) 第15回(1月22日) 授業のまとめ ノートの点検 授業アンケートの実施 第16回(1月29日) 期末試験		
授業の進め方	授業は教科書と配布資料に基づいて進めていきますが、能動学習による理解の深化を目指すため、質疑応答にも重きを置いて展開します。また演習では、生体力学的アプローチに関するレポート課題、治療手技の実技、各単元ごとのSB0のチェックリストとキーワードを用いた自修学習課題、学習内容のノート整理の課題を実施していただきます。さらに、中間テストでは、問題作成や採点にも参加していただきます。		
テキスト、教材、参考書	テキスト ＊Carr JH・Shepherd RB著、潮見泰蔵・斎藤昭彦訳：脳卒中の運動療法 医学書院 2004 ＊山口昇・玉垣努編：身体機能作業療法学(第4版) 医学書院 2021 参考書：授業で紹介する		
成績評価の方法	レポート課題、ノート整理、中間テスト、期末テストの成績に基づいて、総括的に評価します。総括評価の配分は、レポート課題35%、ノート整理20%、中間テスト作成5%、中間テスト成績5%、期末テスト成績35%とし、総計の60%以上を合格とします。各々、上記のスケジュールで実施します。 筆記試験では、生体力学的アプローチと運動コントロールアプローチの考え方や実践方法について理解度を確認します。		
成績評価の基準	筆記試験と演習課題の成果による成績評価の判定基準は、下記の通りとします。 90－100点：秀、80-89点：優、70－79点：良、60-69点：可		

成績評価の基準	なお、筆記試験と演習課題の採点基準は、授業で説明した範囲における最低限の基準にあれば「水準にある（可）」やや詳細な内容であれば「やや上にある（良）」、十分に詳細な内容であれば「かなり上にある（優）」、授業で説明した範囲以上に自身で能動的に学習した詳細な内容であれば「卓越している（秀）」と判定します。
事前事後学習の内容	【事前学習について】 授業の終わりに、次回までに学習すべき内容について説明を行います。 【事後学習について】 授業の初めに、前回の授業で復習した内容や能動学習として学んだ内容についての質問を受けます。单元ごとにSB0とキーワードにより学習内容を確認してください。その成果を中間評価で評価します。ノートの整理では、運動学や身体障害評価学など、既習の学習内容も含めて、整理してください。 本授業の単位取得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間（2時間×15回）＋事前・事後の自己学習時間15時間（1時間×15回）＝45時間 ※以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	本科目は、既習または並行して学習する臨床医学系科目などの知識を基盤としています。他科目と関連づけながら学習を進めてください。 質問への対応：上村智子 tkamimu@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日12時～13時 保健学科中校舎4階 上村研究室